

## 学校評価委員会開催議事録

日時 2024年5月14日(火) 10:30～11:30

新横浜歯科衛生士・歯科技工士専門学校 2階 会議室

参加者 片山先生 浅野副校長 勝田科長 大西主任 長井事務長

作成者 長井

書面 山崎様 牛様 (事前に自己評価をお送りし書面にてご意見を頂いた。)

法人運営について 長井事務長

法人運営全体としては、お蔭様で大きな問題もなく1年終えることが出来た。

歯科衛生士科に関しては、定員には達したものの令和6年度入学の志願者数がここ数年では低く、近隣での歯科衛生士科設立や少子化等の影響が見受けられる。

歯科技工士科に関しては、広報活動を強化した影響もあり10年ぶりに25名を超える結果となった。

国家試験においては、残念ながら歯科技工士科のみ1名不合格者を出す結果となった。

令和5年度 重点目標反省

歯科衛生士科 大西主任

〈国家試験合格100パーセントの維持〉

全員合格を継続することが出来た。

しかし、国家試験対策の際、勉強に対し消極的になり、欠席が増える学生が多くいた。

〈入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現〉

退学者：1学年1名、2学年1名、3学年3名

欠席が見られるようになる前に、早目の声掛けを心がける。

また、欠席が増えた学生に対しては、保護者と連携を取り、登校を促す。

保護者も欠席を認めるケースには、出席の必要性を伝える。

〈多職種連携を意識したカリキュラムの構築〉

昨年度の合同実習に加え、横浜グリッツの選手に対し歯科衛生過程を行った。昨年度の課題だった歯科技工士科学生の相互実習に対する興味は、マウスピース作製で持たせられたと考えている。

また、特別養護老人ホーム「メゾンヴェルト」での臨地実習では、食事介助や摂食嚥下体操など、昨年度より深い内容の実習が行われた。

〈教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化〉

教員同士が常に相談し連携が取れていたため、学生評価が公平に行えた。しかし、教員のレベルアップについての試みはなされなかった。

歯科技工士科 勝田科長

〈国家試験合格100パーセントの維持〉

受験者21名のうち、1名の不合格者となり、95.2%となった。

〈入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現〉

退学者：1学年1名、2学年2名 両学年休学者無し

人間関係、職業への目標が定まらなくなってしまった。

出欠状況により、単位取得の必要時間数超過。

前期単位認定試験に合格ができない状態で後期末試験に間に合わない状況であった。

〈多職種連携を意識したカリキュラムの構築〉

卒業研究、幼稚園実習を通し、それぞれチームワークを意識し、連携や役割を理解した。

合同実習は専門職の役割を活かし、作業別で説明、実習操作が互いに学べる授業を行えた。

臨床現場での見学授業を行い、歯科治療に関わることで、専門性の高い職業と連携の重要性を学んだ。

技工作業では、基本操作の反復練習、応用で多様な考え方、指導側の細かい管理をする必要があった。

個々の役割では出欠状況の良くない学生が多く、一部の学生に負担が多くなってしまう場面があったこと、

期日までの完成に不備があった。

〈教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化〉

質の高い技工作業、教員サポートが必要、情報の共有が足りなかった。

学生の状況把握がそれぞれ足りておらず、実習、国試対策に滞りがあった。

講習などの参加をし、情報の共有が行えた。

令和6年度学校の重点目標は以下の通り

- 1、 国家試験合格率 100パーセントの維持
- 2、 入学者の定員充足と退学者・休学者ゼロの実現

- 3、 多職種連携を意識したカリキュラムの構築
- 4、 教職員のレベルアップ及び学生の知識・技術の平均化
- 5、 規律正しい生活、学校生活への意欲的な参加を促せるような教育
- 6、 社会に適応できる人材育成

片山先生

歯科衛生士科の国家試験100%合格は本当に素晴らしいこと。歯科技工士科も1名不合格となってしまうりましたが、お話を伺っているとマンツーマンでのバックアップ体制やフォローアップ体制が出来ているので引き続き学生のためによりしくお願い致します。

歯科技工士の働き方も日本歯科医師会などで議論されはじめています。よくなってくると思うのでこれからに期待していきましょう。

山崎様

(書面より抜粋)

法人運営について

- ・学生にとってオープンキャンパスのスタッフをすることは、学校の良さを感じ、自分も初心を忘れず頑張れるのでいい機会である。
- ・オープンキャンパス時のパワーポイントが常にバージョンアップされていて学校の魅力をアピール出来ている。
- ・SNSが毎週アップされていて、友人等から楽しそうな学校だねと云われる。
- ・学費の明細がわかりやすくて良い。

歯科衛生士科・歯科技工士科について

- ・歯科衛生士科は、2年生の秋から臨床実習がはじまるので週1回の登校は、友達との情報共有の場としてもとても重要。要望として、グループディスカッションをして分からない事や悩みを話せる場を作ったら良いと思う。

昨年同様の意見として、このようなアンケートを全員対象に実施して欲しい。

牛様

(書面より抜粋)

- ・SNSの活用は、学校の雰囲気が分かりやすくて良いと思う。
- ・歯科衛生士科→実習先で学生を見てみると実際の実習生と補講生の意識の差を感じる。
- ・歯科技工士科→歯科技工士科の臨床現場での実習は、仕事に就いてからでは現場に行ける機会も減ると思うので良い試みだと思う。

以上